

# 履修要項



## 1 単位制度と学修時間

### (1) 単位とは何か

すべての授業科目には単位数が設定されている。単位とは、科目を修得するために必要な学修量（時間）を数値で示したものである。「1単位の授業科目」は「45時間の学修を必要とする内容」をもって構成することが標準となっている。学修時間には、授業時間だけでなく、予習・復習等教室外での自主学習時間も含まれる。

### (2) 単位と授業時間

各授業科目の単位数は大学設置基準に準拠の上、工学院大学学則により1単位の履修時間を教室内（授業時間）および教室外（自主学習時間）を合わせて45時間とし、授業の方法に応じて、次のように規定されている。

[1 単位に要する授業時間]

授業種別	授業時間
講義	15時間
演習・外国語科目・実験・実習・実技	30時間

工学院大学学則に基づき、各授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行うが、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果をあげることが認められる場合は、この限りではない。

### (3) 単位修得と学修時間

単位の修得には、次の2点を満たすことが必要である。各授業科目の評価方法は、シラバスを参照のこと。

- ① 各年度に開講される授業科目の登録を行うこと。
- ② 登録した科目を履修し、予習・復習時間を含めた学修に対して評価（定期試験・レポート課題・平常点評価など）を受け、合格評価を得ること。

各科目で十分な学修成果をあげ、単位を修得するためには、単位数と学修時間の関係を理解することが大切である。授業時間内の学修だけでなく、自主的な予習・復習を心掛けること。

### (4) 授業時間

授業時間は次のとおりである。

時 限	1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	5時限目	6時限目
授業時間	9:10~10:55	11:05~12:50	13:40~15:25	15:35~17:20	17:30~19:15	19:25~21:10

\* 合同定期試験は、上記と異なる時間割となるので注意すること

(5) 履修登録できる単位数の上限 (CAP 制) について

① CAP 制の趣旨

CAP 制とは、1 年間に履修登録できる単位数の上限を設けている制度のことであり、この上限を超える履修登録はできない。授業科目に設定されている単位は、1 単位につき、45 時間の学修時間（授業時間と自習時間（予習・復習にあてる時間）を含む）を必要とする。よって、履修した科目数に比例して、それぞれに必要な学修時間も増えることとなる。履修登録できる単位数を制限することは、履修する科目について十分な学修時間を確保することができるよう、また学修した内容を真に身につけられることを目的としている。

② 履修登録の上限単位数

履修登録の年間上限単位数は、原則として 49 単位（前期・後期・1～4Q、通年科目の合計）とする。夏期・春期等の集中授業は含めない。

③ 特例措置

以下のとおり特例措置を設ける

1. 通算 GPA が高い学生に対する特例措置

前年度末日までの成績によって算出された通算 GPA が 3.5 以上かつ前年度修得単位数が 40 単位以上の者 → 年間 59 単位まで履修登録を認める (+10 単位)

※前年度修得単位数は、前期・後期・1～4Q・通年科目のみ（他大学科目は含まない）で算出する。

※特例の対象となるかは各自で確認すること。

2. 教職科目（教職に関する科目\*1）及び学芸員課程の科目に対する特別措置

(1) 教職課程必修科目（教職に関する科目のみ）のうち、夏期集中科目は上限単位数に含めない

但し、通常期（前期・後期）は含まれる（2021 年度以降入学生）

\*1 2019 年度以降入学生は「教育の基礎的理解に関する科目等」と「各教科の指導法に関する科目」をさす

(2) 学芸員課程必修科目のうち、夏期集中科目は上限単位数に含めない

但し、通常期（前期・後期）は含まれる（2021 年度以降入学生）

2 教育課程について

本学の教育課程は、工学の原理と応用を学び専門的な職業人になるとともに、幅広い教養をもった社会人になることを目的として、総合教育科目群および各学科の専門共通科目群・専門科目群を合理的・有機的に系統づけた授業科目の構成となっている。この他に、教員免許状の修得を希望する学生のために教職課程が、また、学芸員の資格取得を希望する学生のために学芸員課程が設置されている。

(1) 授業科目の区分について

学生の学修活動は、授業科目の履修によって行われる。教育課程の区分は、次のとおりである。

【先進工学部】

【第 I 群】 総合教育科目	a) 総合文化科目
	b) 外国語科目
	c) 保健体育科目
	d) キャリア支援科目
【第 II 群】 専門共通科目	a) 共通基礎科目
	b) 専門基礎科目
	c) 学部共通基礎科目
【第 III 群】 専門科目	専門科目

【建築学部】

【A 群】 総合教育科目	a) 総合文化科目
	b) 自然科学系科目
	c) 外国語科目
	d) 保健体育科目
	e) キャリア支援科目
【B 群】 専門科目	a) 専門基礎科目
	b) 専門科目

【工学部】

【第 I 群】 総合教育科目	a) 総合文化科目
	b) 外国語科目
	c) 保健体育科目
	d) キャリア支援科目
【第 II 群】 専門共通科目	a) 共通基礎科目
	b) 専門基礎科目
【第 III 群】 専門科目	専門科目

【情報学部】

【第 I 群】 総合教育科目	a) 総合文化科目
	b) 外国語科目
	c) 保健体育科目
	d) キャリア支援科目
【第 II 群】 専門共通科目	a) 共通基礎科目
	b) 専門基礎科目
【第 III 群】 専門科目	専門科目

(2) 授業科目の種別について

授業科目の種別	種別説明
必修科目	教育目的を達成するために必ず単位の修得を要する科目
選択必修科目	指定された科目群の中から科目を選択し、決められた単位数以上の修得を要する科目
選択科目	学生の自由意志により選択し、卒業条件などで定められた単位数を満たすために一定以上の修得を要する科目

(3) 標準履修学年

各学科のカリキュラム表には標準履修学年を示してあるので、学生はそれに基づいて履修計画を立てること。

(4) 学期について

4月～3月			
通年			
前期		後期	
1Q (前期の前半)	2Q (前期の後半)	3Q (後期の前半)	4Q (後期の後半)

注1) 詳細については、大学授業日程を確認すること。

注2) 1～4Qの授業は原則として、各7週とする。

注3) 前期および後期の授業は原則として、各14週とする。

注4) 通年の授業は原則として、28週とする。

3 履修する科目の選択について

大学における学修の特徴は、多くの科目の中から学生自らが履修計画をたて、自主的に授業を受ける点にある。履修する科目を選択する際には、『学生便覧』『シラバス』などを熟読し履修計画をたてること。

各学科カリキュラム表の「学位授与の方針」は、各科目を履修することで身につく4つのディプロマポリシーの割合を示している。ディプロマポリシーの詳細は、ホームページを参照すること。

科目名に数字やアルファベットの標記がある科目は、以下の定義に従っているので参考にすること。

科目名	定義	修得する順序
○○○○1、2、・・・	ステップアップ科目	修得順が必須である
○○○○I、II、・・・	科目のレベルを示す	修得順が必須でない
○○○○A、B、・・・	科目のレベル差がない	修得順が必須でない

4 卒業のために必要な条件

本学を卒業するためには、学則に則り、修業年限を満たし、学部・学科ごとに定められた卒業要件に必要な単位数を修得する必要がある。

(1) 修業年限と在学年限、学籍

① **修業年限**とは、教育課程を修了して卒業するために必要な年数で、**4年間**の在学年数を必要とする。(休学期間は在学年数に含まれない) **在学年限**とは、本学に学生として在学できる最長年数のことで、休学期間を除き**8年**である。

② 学生は、入学と同時に学籍が得られ、卒業・退学・除籍により消滅する。**学籍**とは、本学の学生としての身分を有することをいう。

(2) 卒業に必要な単位

学則に定める卒業要件を満たしていなければ、卒業は認められない。**卒業に必要な単位数の詳細は、『学生便覧』に記載されている。**